

市町村別主要死因別標準化死亡比（SMR）マップ

市町村の主要4死因の標準化死亡比（SMR）を掲載しました。標準化死亡比（SMR）は対象者の性別、年齢構成が市町村によって異なるのを補正し、県全体の死亡率を基準にした比率です。しかし、人口規模の小さい地域では年単位の変動の幅が大きく比較に用いるのが適当でないこともあります。このため、3年間の死亡数による標準化死亡比（SMR）を算出し変動の幅を小さくし、地域がわかりやすいようにマップにしました。

標準化死亡比（SMR）の算定には、健康づくりデータブック（宮崎県健康づくり推進センターホームページ）の人口及び死亡数を利用し、地理情報分析支援システム MANDARA を用いてマップ化しました。

1. 標準化死亡比（SMR）算出方法

通常1年間の標準化死亡比

$$\frac{\text{当該市町村の実死亡数}}{\text{（当該市町村年齢階級別人口} \times \text{県年齢階級別死亡率）の総和}}$$

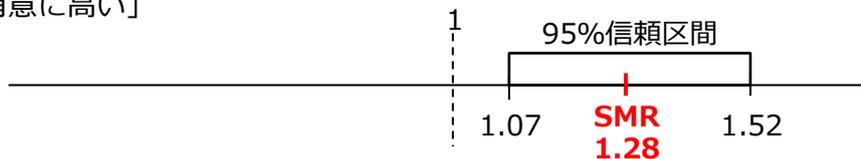
3年間の標準化死亡比は、

$$\frac{\text{3年間の当該市町村の実死亡数の総計}}{\text{（3年間の当該市町村年齢階級別人口} \times \text{3年間の県年齢階級別死亡率）の総和}}$$

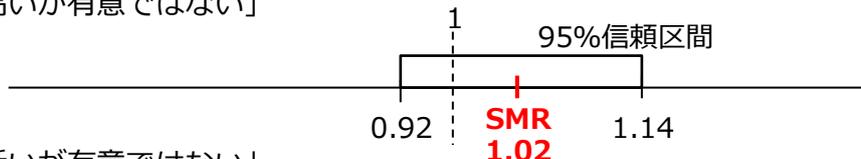
2. 標準化死亡比（SMR）の推定

標準化死亡比（SMR）の95%信頼区間は、ポアソン分布を想定した係数を乗じて求めました。値の読み方については次のとおりです。

① 「有意に高い」



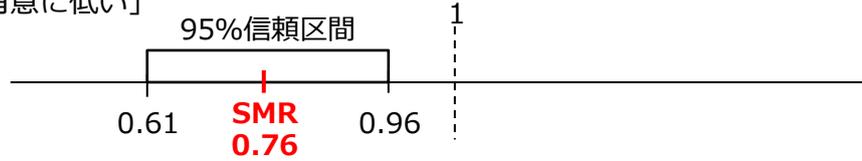
② 「高いが有意ではない」



③ 「低い有意ではない」



④「有意に低い」



当該市町村の標準化死亡比(SMR)の95%信頼区間が1を含まない場合を有意と判定しています。